

平成30年6月21日(木)「第31回 再生普及小委員会」が釧路市観光国際交流センター 2階視聴覚室で開催されました。

開催概要

会議には、小委員会には個人7名、団体8団体、関係行政機関5機関が出席しました。今回は、再生普及小委員会の活動報告及びウェブサイト等による情報発信についての意見交換が行われました。

「～ケネチャラシベツ川さらに奥へ!!!～」
(第20回フィールドワークショップ) 2018年2月6日



Discussion about
Regeneration of Kushiro Marsh

このようなことが話し合われました。

再生普及小委員会の活動報告

事務局より再生普及小委員会の活動について報告が行われました。

1 再生普及行動計画オフィス取組みについて

① ワーキンググループ等の開催

- 第6回 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ
開催日:平成30年1月10日(水) 参加者14名
議 題:ワーキンググループの取組み報告
ウェブサイト、紙媒体による情報発信について
これからの取組予定
- 第7回 再生普及推進のための連携チーム会合
開催日:平成30年5月22日(火) 参加者13名
議 題:環境教育の取組み及び自然再生への参加機会の実施状況について
ウェブサイト等による情報発信について
自然再生普及のためのパンフレット活用方針について
学校における湿原学習支援体制について
再生普及行動計画の実施状況に関する情報発信について

② ワンダグリンド・プロジェクトの推進

- ワンダグリンド・プロジェクト2017活動報告書の作成・配布
- ワンダグリンド・プロジェクト2018の活動支援
・イベント、パネル展での活動紹介
・メールニュースでの活動情報発信
・活動の場の提供、イベント等での支援
- ワンダグリンド・プロジェクト2018応募状況
・応募総数:59団体(個人)79取組(協議会含む) 広報支援施設:9施設



ウェブサイトの更新に関してこのような議論が行われました。(詳しくはホームページをご覧ください)

- どのような体制でプランを作るのか。検討に私達は参加できるのか。
- 今後調整する。整理するに当たりホームページの設置者で集まり検討する。必要がある場合には別途意見をいただく機会を作る。
- 全体の設計をどうするかが重要である。再生普及小委員会には情報系の人不足している。誰がメンテナンスを行うかも重要である。
- メンテナンスだけはしっかり考えていただきたい。5年、10年おきに更新する際、誰が行い、予算はどうするかも考えておくべき。
- 現在の若い人達はフェイスブックやLINE等のソーシャルメディアを利用している。ソーシャルメディアも活用できれば良い。
- 一番重要な問題はデータセンターの情報に間違いがあること。データセンターで一般の皆さんが検索する内容を審議して直すべきである。
- 緊急に訂正すべき誤りと時間の経過により修正が必要なものを仕分ける必要がある。
- 議論に情報系の方を入れる場合、具体的にどうしたら良いか。
- 予算を釧路湿原自然再生協議会、小委員会に回してもらい、委託して運用管理をしてもらうことはできないか。
- 次回の再生普及小委員会までに、既存のものを整理して必要に応じて委員の方から意見を聞き、たたき台を出してほしい。
- 具体的なイメージを画像等で表してほしい。
- データの修正は間違いが分かればすぐに直すべきである。誤りを伝えるルール、発信方法を明確にするとよい。そして各ホームページの管理者が、いつのタイミングで直すかは管理者に任せていただかない。

委員長 委員 事務局

その他

今後の予定等について説明が行われました。

- 「釧路湿原自然再生ガイドブック」「ワンダグリンド・プロジェクト2017」冊子希望の方は事務局までご連絡を。
- フィールドワークショップを8月23日に開催予定
- 次回再生普及小委員会は12月に開催予定

第31回 再生普及小委員会 出席者名簿 (敬称略、五十音順)

個人[7名]

- 君塚 孝一〔(有)自然文化創舎〕
- 貞國 利夫〔釧路市立博物館〕
- 清水 信彦
- 新庄 久志
〔釧路国際ウェットランドセンター技術委員長(環境ファシリテーター)〕
- 高橋 忠一
- 照井 滋晴〔特定非営利活動法人環境把握ネットワーク-PEG〕
- 渡邊 剛弘〔上智大学〕

団体[8名]

- 釧路国際ウェットランドセンター〔事務局長/菊地 義勝〕
- 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会〔芳賀 孝朋〕
- 釧路武佐の森の会〔会長/大西 英一〕
- 公益財団法人北海道環境財団〔事務局次長/久保田 学〕

団体(つづき)

- 特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所〔渡會 敏明〕
- 特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ〔百瀬 ゆりあ〕
- 特定非営利活動法人 くしろ・わっと〔事務局長/成ヶ澤 茂〕
- 特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村〔理事/佐藤 吉人〕

関係行政機関 [5機関]

- 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部
〔釧路河川事務所長/渡邊 和好〕
- 環境省 釧路自然環境事務所〔次長/徳田 裕之〕
- 林野庁 北海道森林管理局
〔釧路湿原森林ふれあい推進センター所長/川淵 義昭〕
- 北海道 釧路総合振興局
〔保健環境部環境生活課 自然環境係主事/大家 智希〕
- 釧路市〔環境保全課 課長補佐/元岡 直子〕

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、
釧路湿原自然再生協議会ホームページで公開しています。
<http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend000003ppq.html>

釧路湿原自然再生協議会運営事務局
〔TEL〕0154-23-1353 〔FAX〕0154-24-6839

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。
電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

- フィールドワークショップの実施
第20回フィールドワークショップ
「〜ケネチャラシベツ川さらに奥へ!!!〜」
開催日:平成30年2月6日(火)
参加者:22名 案内人:新庄久志氏

参加者の感想

- 😊 解説がなければ気づけなかった!
- 😊 夏期には入れない場所に行けた!
- 😊 貴重な体験をした!
- 😊 土壌と植生の深い関わりを知った!

3 情報発信・普及活動の拡充

- イベントへの出展、パネル展の開催
 - シルバーシティときわ台ヒルズ「釧路湿原自然再生パネル展」
期間:平成30年2月1日(木)〜2月28日(水)
内容:釧路湿原自然再生事業紹介パネル展及びワンダグリンド活動紹介
 - シルバーシティときわ台ヒルズオープンイベント「釧路湿原について学ぶ自然文化講座」(写真1)
日時:平成30年2月4日(日)13:00〜14:00
会場:シルバーシティときわ台ヒルズ1階ホール
講師:菊地義勝氏(釧路国際ウェットランドセンター事務局長)
講演内容:北国の自然と歳時
参加者:66名
 - はまなか春の芸術祭(写真2)
日時:平成30年5月5日(土)10:00〜15:00
会場:霧多布湿原センター
内容:「湿原クラフト」体験教室
講師:辻野正氏
- メールニュースの配信、施設等での掲示
- 市町村広報誌、新聞等メディアへの情報提供、記事掲載



写真1



写真2

4 自然再生事業の現地見学会及び自然再生活動への参加機会づくり

- 現場見学会など市民参加イベントの実施予定について(一部抜粋)
●:主催事業 ○:協力事業

担当	自然再生への参加の機会づくり	担当	自然再生への参加の機会づくり	
湿原再生	<開建治水課> ●釧路湿原を再生しよう!未利用地を湿原に戻す取組み 幌呂地区湿原再生 現地見学会 日時:平成30年7月25日 場所:幌呂地区湿原再生箇所(鶴居村下幌呂) 内容:事業説明+現場見学+自然再生体験(ヨシ移植・ハンノキ調査ほか) 対象:一般市民	水循環	<開建治水課> ●水循環現地見学会 日時:平成30年10月〜平成31年1月 場所:未定 内容:湿原植生、地下水、土砂等の水・物質循環に関わる現地見学 対象:一般市民・協議会委員	
	<環境省> ●アウトドア好き集まれin達古武湖(仮) 日時:平成30年9月8日(土) 場所:釧路町達古武湖 内容:カヌーを使つてのヒシ刈り(予定)		土砂流入	<建設管理部治水課> ●久著呂川自然再生の見学ツアー 日時:平成30年8月25日(土) 場所:久著呂川流域及び事業実施箇所 内容:事業説明+現場見学 対象:一般市民
	<開建治水課> ●釧路湿原を再生しよう!直線河道を蛇行河川に戻す取組み 旧川復元現地 日時:平成30年9月21日(金) 場所:茅沼地区旧川復元箇所 内容:事業説明+現場見学(復元箇所eポート川下りほか) 対象:釧路湿原川レンジャー・くしろ自然再生解説員		再生普及	<ワンダグリンド参加活動による実践予定> ○みんなで調べる復元河川環境・2018夏 日時:平成30年6月23日(土) 場所:釧路川茅沼地区 内容:蛇行復元された水辺環境の調査 対象:一般(KIWC主催・環境調査) 主催:釧路国際ウェットランドセンター ○タンチョウの冬の食事場所を作ろう 日時:平成30年7月1日(日) 場所:鶴居村 内容:枯れ木や繁茂した木の伐採作業 対象:一般 主催:鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
森林再生	<林野庁ふれセン> ●雷別ドングリ倶楽部 *森林再生のためのボランティア活動 日時:年5回開催予定 場所:雷別地区国有林(標茶町)外 内容:植樹とツリーシェルターの設置等 対象:雷別ドングリ倶楽部会員	担当	自然再生を活用した環境教育の取組み	
	<環境省> ●自然再生を考える調査体験会(仮) 日時:平成30年9〜10月(秋予定) 場所:達古武の森林再生地 内容:未定 対象:一般市民など	再生普及	○釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検事前学習【実施支援】 日程:平成30年6月22日(金) 場所:釧路湖陵高等学校 内容:座学 対象:釧路湖陵高等学校 理科科1学年生徒	

5 湿原学習のための学校支援ワーキンググループの取組み課題の推進

- 湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進
釧路湿原流域において、フィールド学習が可能な場所を実践と合わせて紹介する「フィールド情報マップ(2016年度作成)」に、達古武周辺フィールド(森林再生事業地及び夢が丘遊歩道・展望地)及び二本松展望地のフィールド情報、実践事例等を追加した。
- 自然再生の学校教育への活用促進
 - 自然再生事業地(達古武森林再生事業地)を活用した実践コーディネート
・標茶町立標茶小学校(平成30年6月1日)【内容:苗畑でのレクチャー】
・釧路湖陵高等学校(平成30年6月26日)【内容:昆虫や沢の生き物をテーマとした調査体験】
・釧路町立昆布森中学校(平成30年10月)【内容:木の実、ネズミをテーマとした調査体験】
- 学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及
 - 教員研修講座の企画
・釧路教育研究センター共催教員研修講座(6月27日(水))
・釧路町理科部会と連携した教員研修講座(調整中)
 - 釧路湿原流域環境を題材とした授業づくりの支援、学習発表の場作りの検討
・標茶町立標茶小学校、北海道教育大学釧路校(境教授)との連携による実施
 - WEBサイトへの情報掲載と取組みの周知
・授業支援実績の掲載(kushiro-ee.jp/support/support.html)
・教員研修講座の詳細記録の掲載(kushiro-ee.jp/training/training.html)
・学校支援WG会合に係る資料、議事要旨等の掲載(kushiro-ee.jp/training/training.html)
・釧路湿原流域の教育委員会の協力を得たワーキングの取組み周知



「フィールド情報マップ」
QRコードからのアクセスはこちら

ウェブサイト等による情報発信について

事務局よりウェブサイト等による情報発信についての説明が行われました。

1 情報発信の位置づけ

- 協議会では、長期に及び、流域内外の多くの人々の理解・協力を必要とする自然再生事業の性格上、設立当初から情報発信を重視してきている。
- 「全体構想」においては、第2章⑨に「情報共有の原則」を位置づけ、他の原則とともに自然再生事業を支える基盤として位置づけている。また、具体的な施策として、第5章7「自然再生の普及と環境教育・市民参加の促進」の中に「効果的な情報発信と関心の拡大」を明記している。

2 WEBによる情報発信の課題

- 協議会員向けアンケート(昨年度実施)及びデータセンター改修調査に寄せられた意見により以下の検討が必要。

課題	対応にあたっての考え方
①情報発信が一元的でなく、情報が重複・分散している	✓ 複数の官庁が分担して事業を実施している以上、一元運用は現実的ではなく、運用負担面からも、 役割分担を整理 することが妥当。
②会議資料以外はデータの更新が行われにくい	✓ 更新を要する情報については、 継続かつ合理的な更新体制 を構築する必要がある。
③自然再生の現状等を市民目線でわかりやすく伝えるべき	✓ 協議会にとって、自然再生の必要性(根拠)、進捗状況、展望等を わかりやすく発信 することの優先度は高い。 ✓ 各小委員会別に年度毎の進捗状況の簡略な報告と次年度以降の展望 等を、データセンター、普及行動計画、各小委サイトのいずれか(要検討)に掲載することとしてはどうか?
④データセンターの情報発信対象(ユーザー)が不明確	✓ データセンター改修に際しては、 学校向け・一般市民向け の情報発信への期待が多かったが、学齢期別サイトは現実的ではなく、指導者としての 学校教員の利用を想定 したい。(学校のニーズ・条件に応じた専門的な情報発信は学校支援WGが担っており、あくまでもユーザーレベルの想定。) ✓ 協議会構成員及び関係者のニーズ は最低限満たす必要がある。
⑤データセンターと他の情報源との機能分担	✓ 論文 など、既存データベースに利がある情報は 扱う必要がない 。 ✓ 湿原に関する公的なデータ・情報 は、ここが発信源となる。
⑥データへのアクセス	✓ 主な図表やデータのダウンロード を可能にする。